

チェルノブイリ通信

2013年12月10日

No.94

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26/バステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimmu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



ブレストでの甲状腺内視鏡手術を終え、記念撮影
今回はレニングラード医科大学からの見学者もありました。詳細は次号にて報告します。

特集：ベラルーシ訪問帰国報告(1)

調査から見えるチェルノブイリ被災地の今

リューダ・チュブチクさんとの再会

リューダ・ウクラインカさん、ニクライさん
ご結婚おめでとうございます!

ヘアサロン・スネガビーク2013報告

2014年度通常総会のご案内

事務局日誌より主な活動報告

コーヒーキャンペーンのご案内

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

● 特集 ● ベラルーシ訪問帰国報告(1)

調査から見えるチエルノブイリ被災地の今

9月23日から10月5日までの期間、第34回目となるベラルーシ訪問を行いました。9月23日から29日までの前半部では主にミンスク州、モギリョフ州での現地調査を、そして9月30日から10月5日までの後半部では清水一雄先生の他、日本医科大学の方々と合流し、主にブレスト州での医療活動を実施しました。ブレスト市を拠点とした甲状腺がん検診プロジェクト開始から10年以上が経ち、支援の内容やニーズ、現地の状況について改めて調査する必要があるという声が上がっています。今回の訪問ではこうした声を踏まえ、現地のニーズやチエルノブイリ原発事故から27年が経過した現在の状況(被災者の健康状態や甲状腺疾患の発生状況、被災地及び被災者への対策など)を改めて調べることも目的のひとつとなりました。今号では前半部の現地調査を中心に報告します。

ゴメリに次ぐ汚染地域、モギリョフ州を訪問

前半部のメンバーは一般参加の金井志歩さん、城景子さん、ロシア語医療通訳・コーディネーターの山田英雄さん、CMNスタッフの河上、川原、平川の計6名でした。当初の予定ではゴメリ州のホイニキ地区(原発から北に約50キロ)での取材調査を計画していました。しかし受入側の事情から急きょゴメリ訪問ができなくなったため、代替案とし

てゴメリに次ぐ汚染地域として知られるモギリョフ州を訪問することになりました。モギリョフ州内の汚染地域は1万5千㎡で、1109の村に約18万人が暮らしています。後遺症や汚染地域の住民のモニタリングは疫学的観点から行われており、社会的対策としては環境、食、放射線教育があります。食料からの被曝を防ぐために線量測定などで土壌汚染をコントロールしている他、食品レベルではセシウム137の場合、乳製品では基準値を1kgあたり100Bqから10Bqへと



人口37万人の文化都市モギリョフをはじめて訪問。赤十字モギリョフ支部にて州の概要や活動に関する説明を受けた後、いくつかの医療機関を訪れ、再び列車でミンスクへと向かう



チェルノブイリ原発事故の概要を説明した資料



赤十字の担当者から説明を受ける



ベラルーシ赤十字のモギリョフ支部を訪問。右端が支部長のニキーチン・アンドレイ氏

より厳しく変更し、肉類や野菜についても厳しい基準値が設定されています。

地域住民への充実した医療サービス

被災者への対策としては主に最新の医療機器の導入、専門家の派遣、被災者のフォローアップの3つがあり、モギリョフ州ではほとんどの住民が医療サービスを受けているという話です。子どもの健康状態については、特に注意が向けられています。また大人であっても、汚染地域で働くためには一定の制限が設けられています。州内では約38%の労働者が汚染地域での労働に従事していますが、「いかに放射能を軽減していくのか」という考えのもと、線量を考える際には自然放射線と医療放射線を考慮した対策がとられています。例えば2011年に開設されたがん患者治療のための放射線センターでは、レントゲンの放射能を下げるなどして、より付加的な放射線被曝を防ぐための対策がなされています。



チャウスカヤ地区診療所



甲状腺用エコー

点から線へと広がる赤十字の移動検診チーム

1997年にブレスト州ストーリン地区からスタートした移動検診システムですが、現在も協力関係にあるブレスト州立内分泌診療所のアルツール医師やバロージャ医師らの活躍によって、その後ゴメリ州、モギリョフ州にもこのシステムが広がっていきました。ゴメリ州での移動検診は終了しましたが、モギリョフ州では保健局の判断で今でも続いています。この移動検診ではスクリーニングによる病気の早期発見によって患者の治療、費用負担を軽減すること

を目的としており、現在は甲状腺がん、乳がんを対象としています。

移動検診チームのメンバーは内科医、内分泌科医、エコー担当医、運転手で構成され、一日に約80人、年間に1万人以上の検診を行います。現在は移動手段である車両と医療機器の老朽化が問題になっていますが、移動検診は今後も継続していく予定ということでした。

赤十字の紹介で訪れたチャウスカヤ地区診療所では、移動検診で



クリモビッチ地区から消えた16の村の名前が刻まれた記念碑(左)
高濃度汚染地域から移住した人々へ提供された住宅(右上)と家庭菜園(右下)

実際に使用されている検診車やエコーなどを見せていただきました。担当医の話では、甲状腺エコーは月に12000〜18000人に対して行われ、年間40人程度に甲状腺がんが見つかるそうです。そのうち40%が結節性病変で30%がびまん性病変とのこと。患者に対しては、コンサルタント、ヨード予防法、放射線恐怖症に対する対応が行われています。

クリモビッチ地区訪問

次の訪問地はロシア国境に近いクリモビッチ地区。執行委員会の庁舎にて汚染対策や被災者の状況について説明を受けた他、地区内のサナトリウム(スポーツ・リハビリセンター)や老人ホーム等を訪問しました。クリモビッチ地区には15〜40キュリー/kmの汚染地域があります。1991〜1997年に実行された移住計画では16の村が汚染のために地図上からその姿を消しました。こうした村々で暮らした



クリモビッチ地区内のスポーツ・リハビリセンター(上)には、ドイツやオランダからも見学者が訪れる。老人ホームは廃校になった小学校を改装している(中、下)

ていた547世帯(1437人)は郊外の非汚染地域やミンスク、ロシアに移住し、住居の斡旋を受けました。また2001年には1250人の子どもが学校を含めて避難をしました。一方、勧告に従わず1〜5キュリーの汚染地域で暮らす住民は今なお約200人いるという話です。

同地区内で事故の後遺症を持つ人は約500人で、その対策として食料品の管理、除染、外国との協議が行われています。また国からの補償としては、医療費無料、病院受診優先、20〜25%の年金割増、希望有給休暇、教育の無料化、産休の延長、子どもに対す

る補償、保養の無料化などがあります。

食品や水の管理については、いかに放射線被曝を防ぐかという点から重要視されています。農業製品や農作物では年に1500件程度の検査を行い、その結果を公開しています。セシウム137の場合、牛乳などでは過去5年間にわたって基準値(100 Bq/kg)を超える値は検出されていません。郊外別宅(ダーチャ)で作られている農作物については、いちご12%、きのこ8%、肉類(野生の鹿、熊)18%に基準値を超えるものが検出されました。



モギリヨフ市内にある子ども病院(左上)では小児科部長との会談(右上)の他、入院患者の病棟(右下)や放射線検査室、超音波検査室、新生児病棟内の未熟児集中治療室(左下)などを見学した。現在ここでは500g程度の未熟児の救命も可能とのこと



州立治療・診断センター訪問では、1991年に笹川財団が実施した検診にて千葉大学のスタッフが同センターへ残っていた穿刺吸引器具に遭遇

法律によって被災者の社会的保護を保障

地区中央病院では事故の医学的影響や現在問題となっている疾患、保養事業について説明を受けました。地区内には約5000人の被災者がいて、多い疾患としては心臓血管系の疾患、消化器疾患などが挙げられます。被災者に対しては凝固系、内分泌系を

含む全ての専門家が総合的にサポートしています。また事故当時子どもだった人々の甲状腺機能低下症も問題となっており、これに対してはホルモン療法が施されています。

当初治療を目的として地区内に設立されたサナトリウムは、国の補償により現在も保養を目的として存続されており、ロシアからも訪れる人がいます。ベラルー

シでは被災者の社会的保護を定めた法律があり、例えば保養に關しては、被災者および住民の毎年の保養利用無料化(21〜24日程度)、子どもは学校教師と一緒に参加、事故による障がい者や汚染地域に住む人優先、障がい者に対しては随伴者への支援もある)といった内容です。なおこの保養は事故関係の有無にかかわらず甲状腺悪性腫瘍の予防も兼ねており、3〜18歳であれば医師の診断により、事故との関係がなくても保養に行くことができるということです。子どもの場合は、家族同伴で保養に行くケースもあります。また身体障がい者は2年に一度保養の権利を持ち、年金生活者の住民は約15%の自己負担で保養に行くことができます。

子どもの転地保養では、18日間のサマースクールに1120人が参加し、海外の保養地へ出かけます。保護者の費用負担は10%程度と経済的に易しいものとなっています。

地区病院との連携によって患者のフォローアップを実施

翌日はモギリヨフ市内にある治療・診断センターと子ども病院を訪問しました。ベラルーシでは、地区診療所での検査でさらに二次検査が必要となった場合に州立病院(治療・診断センターや子ども病院)での検査や治療のアドバイスを受け、再び地区病院へ患者を搬送するという流れで、地方と基幹病院とが連携した医療サービスが実施されています。子ども病院では州内の汚染地域の子どものうち、約20万人のフォローを行っています。10日後の入院期間を目安として、この間に

《支援物資・支援金》

- ベラルーシ赤十字
検診車「雪だるま2号」維持費 \$1,500
- ミンスク10番病院
医療機材等購入費 \$1,000
- プレスト州立内分沁診療所
医療機材等購入費 \$2,000
- NGOO「コンフィデンス」
活動運営カンパ \$900
- 福祉工房「のぞみ21」
工房運営カンパ \$1,276



より精密な検査をおこない、その後は地区病院でフォローを行います。小児血液腫瘍(白血病)が中心で、その他に呼吸器、心疾患、内分泌、腎疾患、感染症、神経内科、未熟児集中治療室などもあります。

チエルノブイリ原発事故とは関係ありませんが、現在問題となっているのは、小児糖尿病とのことでした。また先天性奇形の頻度はヨーロッパと同程度で心臓血管系、消化器系、中枢神経に多く、放射能との関係はなく、むしろ非汚染地域での頻度の方が高いこともあるということです。年内に開設する子ども病院の小児外科病

棟では、外科一般の内視鏡手術を取り入れたい等の話を伺いました。

リユーダ・チュブチクさん 他、友人との嬉しい再会

モギリヨフでの調査を終え、ミンスクまで列車で移動しました。ミンスクではまず、ミンスク市から北西約60kmに位置するマラジェチナの中央病院を訪問しました。中心部であるマラジェチナ市の人口は約13万人、周辺地域には各汚染地域から避難、移住してきた約4万人の人々が暮らしています。

ここでは成人の場合、虚血性心疾患、神経疾患が多く、子どもの場合はモギリヨフと同じく小児糖尿病の増加が問題となっているとのことです。甲状腺疾患は全体的に少なく、2012年に見つかった甲状腺がんは18例で、手術はミンスクの病院で行われています。

前半部の最後には、ミンスク市内にて福祉工房「のぞみ21」のナターシヤさん、ローカルNGO「コンフィデンス」のイリーナさんと、リユーダ・ウクラインカさん、娘のアンナちゃん、そして1996年のスタディツアーで訪問したグルシユコビツチ村出身のリユーダ・チュブチクさんと再会し、支援金を手渡

した他、お互いの近況を報告しました。

次号では後半部のブレスト州での内視鏡手術やアリョーシヤさんとの再会などについて報告しますのでどうぞお楽しみに。

報告／平川可南子(CMN理事)

一年ぶりに再会したリユーダ・ウクラインカさんと愛娘のアンナちゃん

医療通訳の山田さんとお互いの近況を報告し合うリユーダ・チュブチクさん(左)とコンフィデンス代表のイリーナさん(中央)。イリーナさんからは、スイスでの保養プロジェクトに関するレポートを受け取った



モギリヨフ駅(上)よりミンスクへ。車窓には自然豊かな景色が続く(下)

マラジェチナの地区中央病院

地区内の医療機関の分布を示す地図

作文集『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』の作者 リュウダ・チュブチクさんとの再会

今回のベラルーシ訪問では、懐かしい友人との再会を果たすことができました。その一人が作文集『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』に収められている一編の作文を書いた子ども一人、リュウダ・チュブチクさんです。

ベラルーシで「私の中のチェルノブイリ」というテーマで作文が募集されたとき、当時14歳だったリュウダさんはチェルノブイリの悲しみと、美しい故郷への想いをつづり、「私は生きる」というタイトルで作文を応募してくれました。彼女の作文を含む計50編の作品が、作文集『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』に収められ、95年の発刊当時は大きな反響を呼びました。翌96年のスタドイツアールで訪問したリュウダさんの故郷グルシニコピツチ村には、白樺や松、カシの木、草花やコケモモ、きのこに包まれた森があり、彼女の作文にあるとおり、とても美しい場所でした。その



美しい光景と、チェルノブイリによつてもたらされた深い悲しみとのコントラストは参加者に大きな印象を与えました。

現在、新訂版の作文集『子どもたちのチェルノブイリ』（A5版、224ページ、1333円＋税）を販売中です。ご注文はCMN事務局までどうぞ。

祝 リュウダ・ウクラインカさん、ニクラスさん ご結婚おめでとうございます！

今年10月14日、CMNの現地スタッフとしても活躍中のリュウダ・ウクラインカさんが再婚されました。お相手はスウェーデン人のニクライさんという方です。リュウダさんはアンナちゃんとともに、来年秋ごろにスウェーデンへの移住を計画されています。

ベラルーシ訪問時に会えなくなってしまうのは大変さみしいですが、移住先での末永い幸せをCMNスタッフ一同、心から願っています。

またリュウダさんには毎月一回、ベラルーシの様子をレポートしていただくことになりました。11月より事務局ブログなどで紹介していきますので、ぜひご覧ください。



Happy Wedding!



髪を切つて、オシャレに国際貢献♪



2013年10月14日(月・祝)、福岡市中央区大名の大村美容ファッション専門学校オムニス・スタジオにて、「チャリティヘアサロン・スネガビーク」が無事に終了しました。オシャレに、そして気軽に国際貢献ができるチャリティー事業として、年々知名度も上がっています。今年の開催にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました！

報告 / 平川可南子 (CMN理事)

このイベントはプロの美容師さんに15000円で髪を切ってもらって、その収益金をチエルノブイリ原発事故で被災された人たちの支援にあてるという一日限りのチャリティー美容室です。2004年にスタートし、今回は「美容所開設届」を提出し、なんと

が無事に9回目の開催を迎えることができました。ただ美容所であるため今年は理容師さんの参加が認められず、例年よりも予約の受付数が減り、広報不足も重なってお客さんの数が少なくなってしまうことが非常に残念でした。

当日は運営ボランティアさんの他、九州在住のCMN理事が全員参加したこともあり、にぎやかな雰囲気での会場の準備やリハーサルを行い、オープンを迎えました。ちらほらとお客さんが見えられて、スタートはとてもの

んびりとしていました。私も午前中の空き時間に髪を切ってもらった、さっぱりすることができました。

ヘアカット以外では支援コーナー、「のぞみ21」商品などの販売を行い、売れ行きも良好でした。また資料展示では、パネル以外にもパソコンを持ち込んで現地の映像の放映も行いました。一人でも多くの人がチエルノブイリ原発事故やベラルーシに興味を持って、詳しく知る機会になればと思います。

さらにインターネットの予約サイト「こくちーず」の活用も始め、より簡単に予約できるよう改善を行いました。その結果、予約枠が例年より少なかったこともありますが、開催前に予約分はほとんど埋まってしまいました。最終的には飛び入り参加の方と合わせて46名のご来場者



当日はテレビ局の取材もあり、夕方の番組で放送されました。写真はインタビューを受けるヘア・ヌーダのオーナー、井上さん。このチャリティー事業の発案者でもあります。



チャリティーなのに丁寧な対応でとても満足です、という声をよくいただきます。今回はCMNスタッフ数名も交代で休憩を取りながら、髪を切っていました☆

спасиба!

◆会場提供…

学校法人 大村文化学園

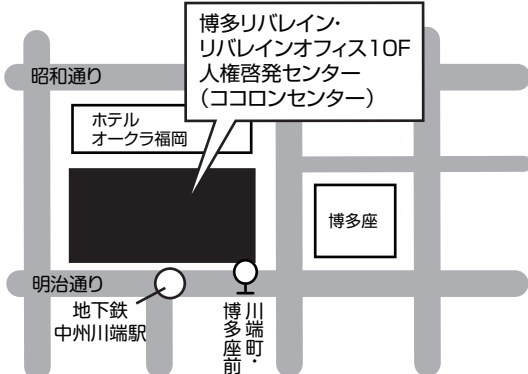
◆協力サロン・美容師の皆さん…

hair Nu-DA/ヘアヌーダ(TEL:092-715-2770)

Matilda/マチルダ(TEL:092-711-1739)

hair double/ヘアダブル(TEL:092-731-3104)

HOLLY"S/ホリーズ(TEL:0955-79-1181)



*福岡市営地下鉄「中洲川端」より徒歩1分

*西鉄バス「川端町・博多座前」より徒歩1分

ココロンセンター TEL:092-262-8464

★資料の準備があります。参加ご希望の方は事前に事務局までご連絡ください。

- 日時：2014年2月15日(土) 17時30分～
- 場所：福岡市人権啓発センター 研修室
(福岡市博多区下川端3番1号)
博多リバレイン・リバレインオフィス10F
- 内容：今年度事業報告・収支決算報告および承認
次年度事業計画・収支予算の承認など

2014年度通常総会を開催します。今年一年間の活動報告と、来年度の計画を検討します。正会員(議決権あり)でない方もオブザーバーとして参加できます。

2014年度 通常総会のご案内

があり、たいへんありがたく思っています。また、毎年楽しみにしているというリピーターの方もいらっしゃる、このイベントが浸透しつつあるのかなと思います。

ただ例年の来場者数に比べるとやはり少なく、今回は収益金を生み出すことができませんでした。チェルノブイリのことを伝える機会にはなったものの、被災地へ支援を届けるといふ目的が達成できず、非常に申し訳ない気持ちです。またもっとお客さんを受け入れることができたの

ではないか、お客さんへの対応は十分だったのか：等々、他にも色々反省点がありますが、アンケートを見ると「よかった」という声がばかりでうれしい限りです。「丁寧な対応で満足でした」、「このイベントをこれからも続けてほしい」という意見も多く、今後も可能な限りこのイベントを続けたいと思っています。最後になりますが、今回のイベントに協力してくださった皆さま、ご来場いただいた皆さまに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。

<http://www.cher9.to/>

◆9月24日 吉岐中学校へ講師派遣



講演の様子

3年生向けの国際理解学習の授業として、福岡を中心に活動する3つの国際協力NGOがそれぞれの活動地域や支援内容についてお話をしました。後日いただいた感想文では、「今まで知らなかったことが良く理解できた」「自分ができることからはじめたい」といった声がありました。

◆9月28日 かえっこバザール



エコ講座を聞く子どもたち

古賀市の仮認定NPO法人「エコけん」主催のかえっこバザールにて、ポイントを獲得できるクイズの出題者として団体紹介ブースを出展させていただきました。クイズラリー、エコ講座など会場内では色々な企画が行われ、終始お子さんたちが元気に動いていました。

◆10月6日 ハートフルフェスタ福岡



のぞみ21雑貨などを展示

福岡市役所前で開催された「ハートフルフェスタ福岡」に今回も参加しました。人権問題に取り組み団体や国際協力NGOなど数十団体が一堂に会して活動紹介ブースを出展した他、フリマやステージイベント、子ども向けの企画もあり、とても賑やかでした。

◆11月9日、10日 地球市民どんたく



出展ブースにて

福岡を中心に活動する国際交流、協力団体が集まり、それぞれの活動をアピールしました。CMNではブース出展以外に、ロシア語医療通訳の山田英雄さんをお迎えしての活動報告会、マトリョーシカ絵付け体験を実施し、たくさんの方にご参加いただきました。参加団体と事務局＆ボランティアの皆様、お疲れ様でした！

帰国報告会



マトリョーシカ絵付け会



★ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ★

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？

期間中、商品（コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨、書籍など）を合計5千円以上ご注文いただいた先着15名の方にベラルーシのお菓子セットをプレゼントします！

期間 2013年 12月1日(日)～12月21日(土)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります。



私も応援しています!
会員さん
紹介コーナー
Vol.20

このコーナーでは、チェルノブイリをとともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材／三島

本日の会員さん

牧 洋子さん

<福岡県福津市>

原発の恐ろしさや、自分で考えることの大切さを、まだ知らない人へ伝えたい。



何年前だったのか定かではないの

ですが、ある新聞で「チェルノブイリ支援をしている寺嶋悠さん」という記事を読みました。彼女の出身地が私と同じで、こんな田舎にそんなことをしている人がいることにビックリで、とても嬉しかったのです。その地区の方に尋ねると、「多分あの寺嶋さんかな」というくらいで、はつきりしませんでした。それでもいつかはお話しをお聞きしたいと思っていました。ただ、私自身はとても恥ずかしいことに、チェルノブイリについては遠い国のことと関心が薄く、ヨーロッパの小麦を敬遠する程度でした。本気で関心を持ったのはやはり3・11以後のことです。「原発は危ないけどね」と言っていたものの、原子力発

電の恐ろしさを初めてほんとに知っ

たのも3・11以後です。貪るように本を読み、小出裕章さん、広瀬隆さん、菊地洋一さん、藤田祐幸さん、糸島の甘蔗さん、仲秋さん；等々のお話を聞きに行きました。また、某新聞連載「プロメテウスの罠」で大変感銘を受けた木村真三さんのお話が聞けたなんて思いもしないことでした。そこで思ったのは、私は知らされてなかったのではなく、知ろうとしなかったのだということでした。多くの方々が警鐘を鳴らしておられたのでした。そしてこれは私のように気づいていなかった人たちに、原発の危険を知らせ、共有しなければならぬという思いにつながっていました。

11日に署名用紙を持って駅前

立ったこともありです。そこでは「原

発賛成」「原発は仕方ない」から「原発って何?」「あなたはどのようにして原発をなくしていくの?」と質問されたりして、勉強して自分の考えをしっかり持たねばならないと痛感しました。その時、こんな近くでチェルノブイリ支援に取り組んでいらっしやるチェルノブイリ医療支援ネットワークのお力を借りない手はないと、講演をお願いし、快く引き受けていただいていた勉強会を持ちました。福岡市まで1時間で行ける地域ではあります。市間で、昼間に地域でということでも、気楽に沢山の方が来られました。それがきっかけで、せっかくの集まりを継続発展させたいと、その後2

012年2月、定期的な勉強会を始め、関東から避難、移住された若いママも加え10数名の参加で現在20回以上を重ねています。原発や核廃棄物をなくす運動は長丁場なので、読書と情報交換だけでなく、映画『シーナウの想い』鑑賞、風力やバイオ発電施設見学、エネルギー問題講演会なども行なって楽しくやっています。この運動は、今の私たちがこの世を去っても続けなければならぬものです。小さいながらも津々浦々で活動が行なわれ、自分で考える国民が育つことこそが大事なのだと思います。

今、原発の危険性がどんどん明らかにされてきています。それに反して都合の悪いことを隠し、明らかにすることを許さず、明らかにする人を罰しようとする政府。フクシマは収束した、フクシマから学んだから大丈夫とばかりに海外に原発を売り込もうとする政府。あいた口がふさがりません。原発を認めてしまった私たち大人世代は、一刻も早く原発稼働を止め、更なる核廃棄物を生み出さないという義務を果たすため、気長く、一歩一歩やっつけようと、私たちの勉強会は続いています。(談)

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

- 縣ひとみ 浅倉カヨ子 浅原望樹 石橋啓子 伊藤和夫 歌野
- 秀子 江藤俊一 榎本みつ枝 太田千賀子 岡野祐子 沖佐和
- 子 片山美奈子 (株)モノダスサンコー 辛島恵里 飯屋園幾
- 代・今日花・昴・栞 川原重信 貴田典子 木下るみ 古賀尚
- 子 小鳥居雅子 小山博子 サトウ矯正歯科クリニック 里見
- 照子 澤野重男 渋谷けい子 少年少女みなみ 関根敏子 高
- 橋武三 田中裕一 田中啓 つみやや 中村順子 中村陽子
- 野口弘子 野中孝子 野原初五郎 久保山菜摘 深堀ミチ子
- 榎田千絵 三木悦子 村上和代 めぐみ保育園 森美津子 山
- 浦真弓 山路まり子 山本潤子 過足智子 吉村淳子

〔都道府県別〕

- 〔北海道〕 2名 〔福島県〕 1名 〔東京都〕 8名
- 〔神奈川県〕 2名 〔千葉県〕 1名 〔埼玉県〕 1名
- 〔山梨県〕 1名 〔静岡県〕 2名 〔愛知県〕 3名
- 〔三重県〕 1名 〔富山県〕 1名 〔兵庫県〕 2名
- 〔島根県〕 6名 〔広島県〕 8名 〔山口県〕 11名
- 〔愛媛県〕 1名 〔福岡県〕 60名 〔佐賀県〕 4名
- 〔長崎県〕 7名 〔熊本県〕 17名 〔大分県〕 8名
- 〔宮崎県〕 2名 〔鹿児島県〕 4名

計153名(匿名含む)

合計	1,946,354円
活動支援金	1,795,804円
のぞみ21カンパ	30,050円
雪だるま3号カンパ	19,500円
東日本支援カンパ	101,000円

●マンスリーサポーターの皆さん

- 相羽美香子 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田
- 照子 井上礼子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野千鶴子
- 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久
- 保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 落石久子 片山富美子
- 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻
- 愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子
- 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗
- 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 首藤展子 高山
- 知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男
- 由利子 朱加 網脇牧子 坪川裕子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥
- 原良子 永江之子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙
- 智子 中村洋子 榎崎悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代
- 納富育代 廣松初美 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田
- 優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美
- 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 村田聡子 村
- 西美田紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮
- 輔 吉田美抄子 吉丸隆子 渡邊真志子

計122名(匿名含む)

(2013年8月1日～10月31日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨、支援コーヒー・紅茶等の購入を通じて活動を支援して下さいました。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

★株式会社カタログハウス様より、100万円の運営支援カンパをいただきました。心よりお礼申し上げます。

編集後記

今号では秋のベラルーシ訪問・前半部について特集報告させていただきました。今回はミンスク、モギリョフ、プレストの3つの州を訪問。移動手段は列車の他に、会員の皆さまからのカンパによってベラルーシ赤十字へ届けられた「雪だるま3号」も利用しました。CMN以外にも、チェルノブイリ支援をしている他の団体さんがベラルーシ国内での移動手段として活用されたり、ドクターや患者さんを乗せたりなど、「雪だるま(現在は2号)は移動検診車としてベラルーシの大地を走り回っています。本頁最下段にある会員さんからのメッセージの最後に「雪だるま3号」に関する質問がありましたので、この場を借りて回答させていただきますました。次号での後半部の報告もどうぞお楽しみに！(み)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

- 地道な活動をなさっていることに頭が下がります。いつも少額ですがみません。●暑いのに、ご苦労様です。●ノンカフェインコーヒー、うれしいです。コーヒー好き姉さんにプレゼントします！●いつの日かチェルノブイリに行つて、この目で見たい。●原発廃止に向けて益々重い活動。●皆様の活動が今後の日本の子供達に必ず役に立つようになると思います。●いつもチェルノブイリ通信を送って下さりありがとうございます。ほんの少しですが、お役に立てますように…。●いつもおいしいコーヒーありがとうございます。●残暑御見舞申し上げます。東日本大震災から2年半が過ぎて、少しずつ忘れ去られていく気がしています。つらいことは分け合います！●美味しいコーヒーをありがとうございます。●福島の子どもの被曝が心配です。すでに甲状腺異常が多くみられるようになってきました。●福島県アドバイザー山下氏や学会の動向を見ると、福島の子どもの親たちや親たちに寄り添って健康被害対策をしているように思えません。チェルノブイリ医療支援の経験をもっと福島へ、と願います。●事故処理の進まない中で、きびしい生活を強いられる方々に少しでもお役に立ちたいと思います。福島原発事故にかかれて薄れていますが、共に手を組み、良い方向へ向かうように…。●今回は「雪だるま3号」にカンパします。ところで「雪だるま3号」って、どんなことをするんですか…？